

1年間、たくさんの方々に支えられ、支えあいながら過ごすことができました。まずは言葉では表しきれませんが感謝の気持ちを伝えさせてください。ありがとうございました。

私は所謂「地域枠」の医師で、ここ大分県の津々浦々へ勤める使命をもち医師になりました。これまでは大分市、由布市を中心に初期研修医として診療にあたっていたので、私にとって津久見市は「地域枠」医師としての始まりの一步となった場所です。率直な感想を申し上げますと、津久見でその一步を踏み出せて、本当に良かったと心から思っています。

津久見市は皆様ご存じかもしれませんが、人口が大分県で最も少なく、高齢化率も屈指を誇る地域です。一体ここで、医療人としてどんなことができるのだろう。そう思っていました。今まで大きな病院にしか勤めたことがない私には想像もつきませんでした。1年間で分かったことは、「何でもできるが、全てはできない」ということです。何を言っているのかわからないかもしれませんが、例えば未曾有の感染症の最先端治療、一般的な感染症治療、がん治療や手術、人生の終末期のケア、胸腔穿刺などの侵襲的な検査や治療、レスパイト入院…当院は地域の病院とは言え、スタッフのレベルも非常に高く、何でもできます。そしてやらせてくださいと言えどやっつけていいよと言ってくれる心強い先生方がいらっしゃいます。私は消化器内科専攻医ですので、内視鏡もできますし、近隣の市では行っていない胆膵内視鏡も当院では大学病院の協力のもと行えています。決して大規模ではない地方の総合病院で、何でもできる。助けを必要とされる方がいれば、すぐに対応できる。これは本当にすごいことだと思います。ただ、専門的で高度な治療は当院では行えず、大分市や佐伯市などに協力を求めることもしばしばです。粗方何でもできますが、すべてはできません。マンパワーの問題、施設規模の問題もあります。そんな中で、初療を行いながら高度医療機関での加療が望ましい、と判断することもまた当院のような病院の使命ということがわかりました。この「できるできない」の判断がつくようになったことは、この1年間で得られた大きな成果です。できる範囲で、患者様とご家族様に安心していただける、全国どこの病院と比べても判断に狂いのない、質の高い医療を提供すること。初期診療を行い、少しでも現在の症状を緩和してさらなる治療へつなげること。これは当院の、そして地域中核病院の使命だと思います。これが患者様の安楽につながり、ご家族様へも安心を提供できることなのだ実感しています。この使命を脈々と受け継がれてきた先生方に負けじと、私も1年間勤務してまいりました。大変短くて、そして貴重な1年間であったと今体感しています。特に津久見市の方々は、最後までこの住み慣れた暖かい環境で過ごしたいといわれる方が多いように感じます。皆様の願いを解決するにはまだまだ課題も山積みですが、この地域を離れても津久見市の、そして大分県の皆様が安心して住み慣れた地域に暮らしていけるよう、使命をもって各地へ勤めてまいります。

この1年間を振り返ってください、と言われ、1年たつのは早いなと思いつつも頭に浮かんだのが、関わってくださったスタッフの皆様、そして患者様の笑顔です。よく中高生の頃、職業体験等で「やりがいは何ですか」というありきたりなことを尋ねると、必ず「ありがとうと言われること」とどの大人も口をそろえて言っていました。『他に言うことがないんだろう』と思っていましたが、当院へきて、その言葉の意味を身にしみて感じました。こんなに素敵な言葉だったのです。ですので、重ね重ねになりますが、私も改めて1年間の想いをこめ、この言葉で締めくくりたいと思います。

1年間大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

内科 郷田 悠